

切土－D－①

工法名
張り工法

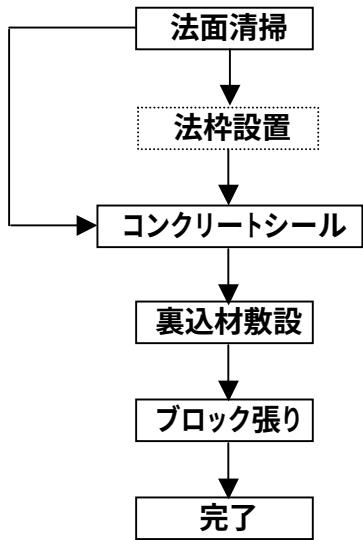
ブロック張工法

構造物の概要・特徴

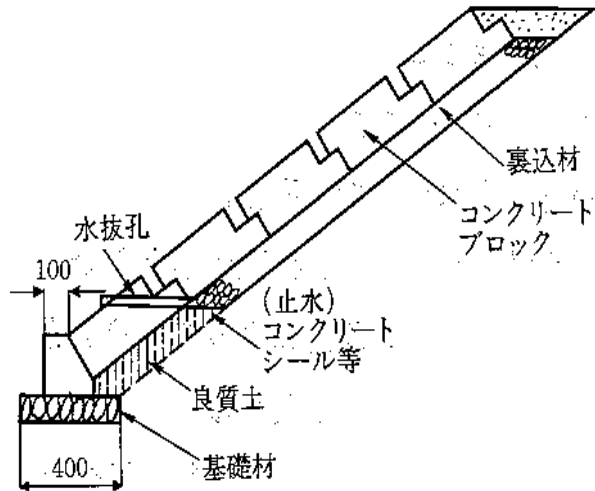
ブロック張工は、法面の風化及び侵食等の防止を主目的とし、粘着力のない土砂、泥岩等の軟岩及び崩れやすい粘土等の法面に用いる工法である。法面保護であり、大きな土圧には抵抗できない。

構造物周辺状況

■施工フロー



■標準断面図

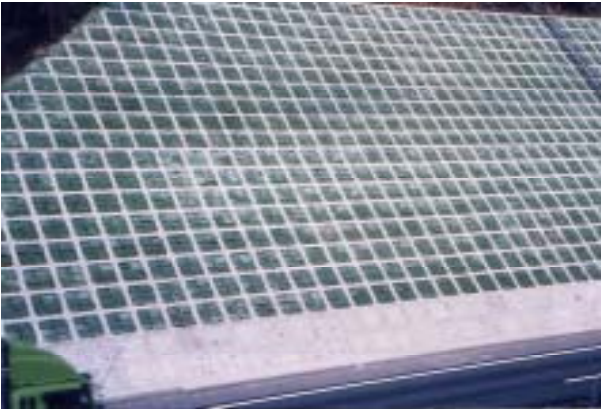


NETIS登録番号

参考文献	・道路土工土質調査指針（（社）日本道路協会）（昭和61年11月）
	・道路土工擁壁工指針（（社）日本道路協会）（平成11年3月）
	・道路土工のり面工・斜面安定工指針（（社）日本道路協会）（平成11年3月）

状 況 写 真 等

完成状況



完成状況



工法及び施工時の留意点・注意点	・背面地山が安定勾配であること
	・湧水や浸透水の多い場合には必ずフィルター材を設置、その厚さは20cm程度をすること
	・また、特に湧水が多い場合には排水処理（暗渠排水や防水マット等）を行うこと
	・ずり落ちや浮上がりが生じないよう処置を行うこと
	・周辺環境との整合性が取れていること
	・最大壁高5m程度
	・のり面勾配1：1.0～1：1.5